

花巻市・ラットランド市姉妹都市提携30周年記念レセプションにおける ジェフ・ウエンバーグ前々市長あいさつ

あいさつを準備しているうち、姉妹都市関係30周年の祝賀会で姉妹都市の歴史を共有することがふさわしいのではないかと思いました。

1874年（明治7年）の夏、米国海外宣教委員評議会はグレース組合教会で会合を開きました。そこで、日本から来た若い男性が立ち上がりキリスト教宣教師を研修する学校を日本で設立するのに必要な資金を集めるため熱心に演説をしました。ジョセフ・ハーディ・ニイジマは、彼が日本に戻り学校を設立することができる合計5千ドルもの寄付金が集まるまで立ち続けました。彼が設立した京都市にある同志社大学は、今日、3万人の学生を有する日本の私立大学の中で最も重要な大学の一つであります。

第二次世界大戦直後、ラットランド市出身のチャーリー・タトル氏は、日本の復興を支援するダグラス・マッカーサー司令官のスタッフとして日本へ派遣されました。彼は、日本人とその文化に非常に感銘し、多くの日本文学の最初の英訳本をはじめとして、日本の歴史、文化、芸術、言語に関する本の出版に彼の生涯を捧げました。1983年、日本政府は、日本と米国の理解促進に貢献した功績により、彼に瑞宝章を授与しました。彼は、日本人以外の初めての受賞者となりました。

私たちの姉妹都市関係は、インディアナ州アーラム大学のジャクソン・ベイリー教授が、自分の町との姉妹都市候補地を探していた関鋼次郎石鳥谷町長からの要請に応えた時に始まりました。新幹線の延長により石鳥谷町の孤立はなくなり、彼は、町民に美しい山々に囲まれた盆地の外の世界を経験させるのに役立つアメリカの町との姉妹提携を願っていました。幸運にも、ウオーリングフォードに住むメアリー・アン・カドウォルダーとレオナルド・カドウォルダー夫妻が、ベイリー教授の教え子でした。彼は、バーモント州が岩手との共通点が多いと考えて彼らに連絡し、そして彼らは、候補地としてラットランド市を提案しました。関町長と夫人は、1985年の休暇にラットランド市を視察に訪れ、そして、メアリーアンとレンは、ジャック・デイリー市長を紹介しました。関町長は、まだ他の町を視察しなければならなかったにもかかわらず、すぐにラットランド市との姉妹都市を決心しました。翌年、関町長は訪問団を連れてラットランドを訪れ、ここにその際の提携書ご覧いただいておりますが、姉妹都市提携が行われました。

半年もたたないうちに両市町長とも再出馬をしないことになり、後任者に、大竹義文氏と、ここにおります私に代わりました。そして、私たちの前任者たちがこの関係を始めたのですが、これに伴って何をなすべきかを考えることは私たちにかかったのです。その

9月、ナンシーと私は訪問団を連れて日本を訪れました。よく聞いていただきたいのですが、私はそれまで一度もオハイオ州よりも西へ行ったことがなかったのです。約20時間もの移動の後、私たちは現地時間の午後11時に電車のホームに到着しました。そこには、町長と、数十人の町役場職員、地元紙の記者たち、テレビカメラなど色々な人たちがいました。言うまでもないことですが、私たちは電車のホームに降り立った時、どうすればいいか全くわかりませんでした。

私たちは、花巻温泉に送ってもらい、落ち着いた夜の眠りを満喫しました。翌朝、私は起床し、窓の外を見ました。私は、「ナンシー、こっちに来て見なくてはいけないよ。」と言いました。驚いたことに、そこには、メンドン山、バルド山、タコニック山があったのです。地球を半周も回ったところに私たちの故郷ととてもよく似た盆地を見つけて、とても不思議でした。私は、関町長の決断を理解し始めました。私たちはまるで故郷にいるようでした。

その夜、非常に盛大な歓迎会が開催されました。その時私は34歳で、大竹町長は今の私と同じ年齢（64歳）でした。彼は、「我々は、次に何をなすべきかを公約することなしにはこの訪問を終えることはできない。」と言いました。続く30分間で、我々は、翌年から始めたラットランドと石鳥谷の生徒交流の原案を考えました。1987年（昭和62年）の訪問団のメンバーで今夜ご出席の方は、ご起立して皆さんにわかるようにしていただけませんか？

私は、谷藤美樹子さんを思い出します。彼女は、1987年に我々訪問団が彼女の小学校を訪問した際にバルコニーからアメリカの国旗を振っていましたが、1992年（平成4年）頃にライズ（RISE = Rutland-Ishidoriya Student Exchange の略）でラットランドを訪問しました。その後フッカー家と一緒に住むためにラットランドに戻り、ラットランド高校に通い、2000年（平成12年）にバーモント大学を卒業しました。彼女は現在、ダン・フェラロ氏と結婚し、きれいな娘がいてテキサス州エルパソに住んでいます。個人的なことになりますが、私たちの娘のジリアンは、2003年（平成15年）にアレクサンドラ・ローラスと一緒に RISE 訪問団に参加しました。

また、私はその旅行の話を共有しなければなりません。ブレンダン・ホワイトは、その訪問団の一人でしたが、彼の母親と父親は今日出席しています。訪問団がバスに乗って、道路の脇で犬を訓練している一人の男性を見ていました。ブレンダンは、驚いて叫びました。「見て！あの犬は日本語がわかるよ！」

2001年、キャッサリーノ市長は、15周年を祝うため訪問団を引率して石鳥谷を再

び訪問しました。素晴らしい訪問の後、「9月11日」の攻撃により、数日間帰国が遅れました。私たちは、石鳥谷の皆さん、そして東京の人たちが私たちに示してくれたお世話と親切への感謝は、決して言い尽くすことはできません。今夜ご出席のその時の訪問団のメンバーの方々のご起立し、皆さんにわかるようにしてくださるようお願いいたします。

私たちは、30年にも渡り多くの友人たちを作ってきました。もし、他界された方々を思い出す時間を取らないことは怠慢になると思います。関鋼次郎町長、ジャック・デイリー市長、川村昭教育長、菅原昭造教育長、照井正紀氏（商工会長）、後藤成志校長、鎌田賢悦氏（ライオンズクラブ）、ジョセフ・クリスティ氏、初期の RISE 訪問団メンバーです。ジャクソン・ベイリー教授、チャーリー・タトル、禮子・タトル夫妻、そして、今年6月、92歳で亡くなった私の友人、大竹義文町長です。

昨夜、そして今夜、初期の頃を思い出させてくれるパティ・ドネリー氏、ボブ・スタイブリー氏、ルー・ディアンジェロ、アンジー・ディアンジェロ夫妻、藤原睦さん、その他の方々は、この関係によってラットランドと花巻でどれだけ多くの人たちが影響を受けてきたかを知って驚いています。

人は種を植えたとき、それがいつか実になることを確実に知ることはできないものです。関町長とデイリー市長は、彼らの市民／町民が自分たちの故郷の美しい山々を越えて世界を見つけるだろうという希望を持って種を植えました。私は、私たちが彼らの先見性によってもたらされた甘い果実を心ゆくまで楽しんでいるのを、彼らが微笑んでいるのが見えます。